



水使用量のフィードバックがその後の水使用に与える影響 —水資源の共有財としての意識化—

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

天坂有希* 大瀧友里奈** 大瀧雅寛*
*お茶の水女子大学生生活科学部 **一橋大学大学院社会学研究科
E-mail: g1430201@edu.cc.ocha.ac.jp

背景と目的

貯水池の枯渇時期と水の高需要が重なることで、夏場の渇水のリスクはますます高まり、安定的な水供給が脅かされることが危惧されている。

課題

消費者自ら節水行動に変容させることは可能か



スマートメーター等による数値での情報通知

より効果的

【先行研究1】
・ランキング
30位 1位

・絵文字

▽(@^▽^)/ (^_^) (_ _) (TdT)



(TdT) 使用量多

目的

水需要を変化させるのに有効なフィードバック方法を探る

先行研究

見てすぐに理解できるイラスト

新たに

水資源はみんなで使用する共有財である意識喚起

直感的な分かりやすさ

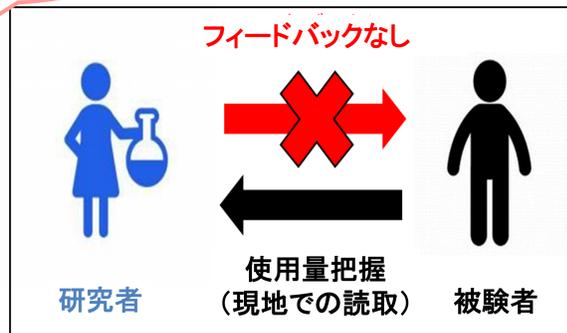
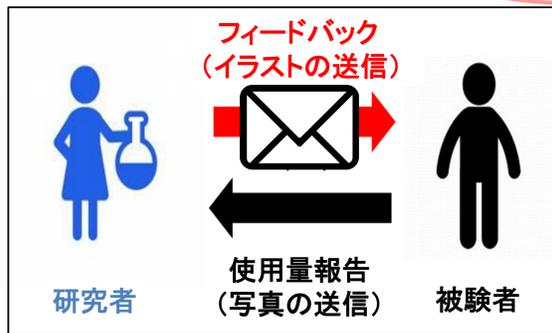
共有財の意識

調査方法

フィードバック群(44名)

両群の比較を行った

コントロール群(43名)

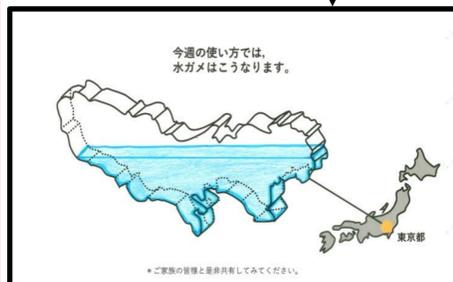
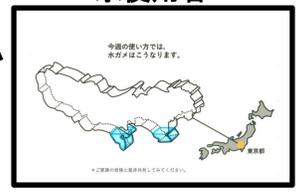


平均水使用者

少ない水使用者



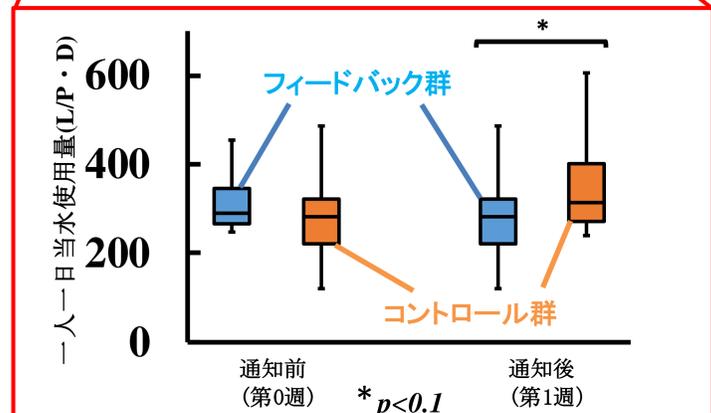
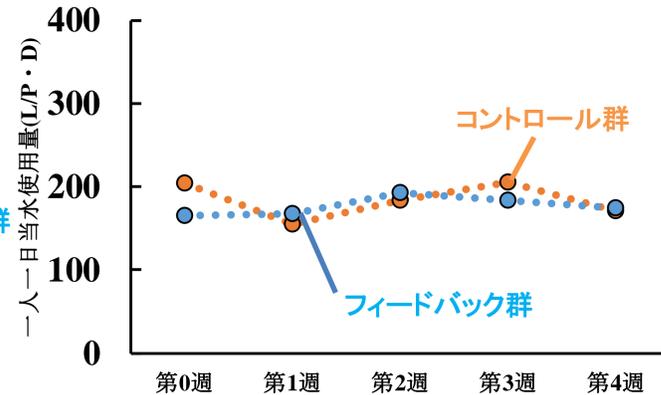
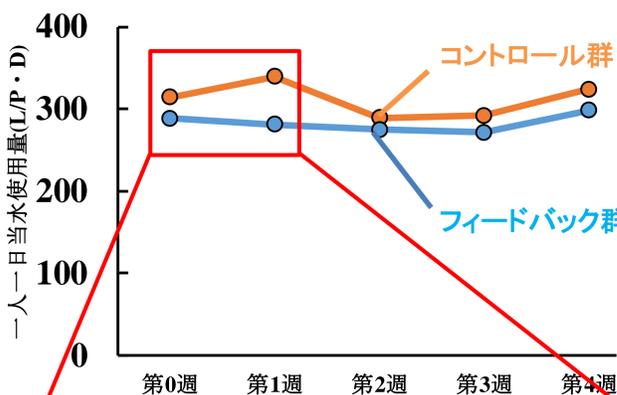
多い水使用者



東京都居住者用イラスト

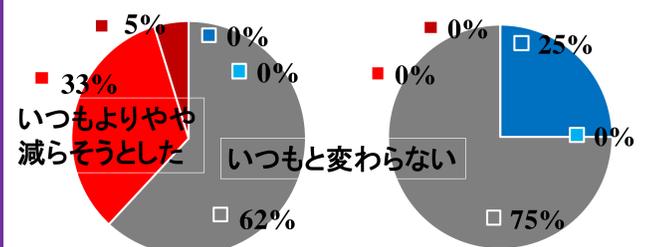
* 使用量に応じて、10種類の貯水量レベルを用意

結果



アンケート結果(調査終了後)

Q.この1カ月、どのように水を使おうと思いましたか?



フィードバック群は使用量の情報通知により、意図的に節水を行おうとした人が増えた

過度な貯水量の枯渇が起きた際に意識喚起できる?

2つの可能性

①短期的な水使用量の抑制効果

高消費家庭において節水を促進させる可能性(ただし今回の調査では短期的な期間のみ)

②水使用量のピークカット

水を多く使う期間において、使用量の増加を抑えられる可能性

結果のまとめと課題

- 共有財を意識させたイラストの与える影響
 - 高消費家庭について、短期的に水使用量の増加を抑制した効果が見られた
- アンケート結果
 - コントロール群に比べてフィードバック群の節水意識が高まった
- 今後の課題～共有財が行動に与える影響について～
 - 長期的な効果を持つのか、これから検討する必要がある
 - 他の情報通知方法の効果と比較検討
 - 夏場(8～9月)と別の時期(例:11月～12月)での効果の検証

実用的な展開

今回のイラストにて水使用量をフィードバックすることで、高消費者の水使用量に短期的な影響を与えることができた

水分野でスマートメータが導入された場合、効果的なフィードバック方法となる可能性あり

引用文献

1) Otaki et al (2017) J of Cleaner Production 143, 719-730